授業科目　公衆衛生学

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語
本間　寛	開講時期	前期	必修・選択	必修・必修・選択
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

<概要>

公衆衛生の意義、健康障害の意味、健康水準の考え方、社会環境との関係、行政的対応などを中心に基本的な知識の習得を目指す。

<一般目標・ＧＩＯ>

医療に係わる専門職として、時代の要請がある保健指導のできる情報と方法論の習得を目標とする。

また個人的には社会人として予防医学的観点から健康についての理解を深める。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1．公衆衛生学の定義と歴史的経過についての情報を獲得する。

2．健康水準の意義を知り健康障害についての解析法を理解する。

3．集団の健康障害の原因と障害内容を知り、これらの実際の予防対策についての知識を蓄積する。

4．医療制度や我が国の健康対策について理解し、専門職として健康への目標の設定をできる能力を養う。

5．レポートを通じ、健康に係わる問題点について理解を深める。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	医学と公衆衛生学	医学としての公衆衛生の意義と日本の現状を理解する	1	講義とレポート
2	公衆衛生学方法論	健康水準・健康指標・疫学方法論を理解する	1.2	講義とレポート
3	環境保健	環境変化・生体影響・公害について理解する。	2.3	講義とレポート
4	産業保険	産業保険としての労働衛生管理を理解する。	2.3	講義とレポート
5	学校保健・母子保健	少子化問題を通じ、母子保健・学校保健の意義を理解する。	2.3	講義とレポート
6	成人保健・老人保健	生活習慣病を学び、老化と健康問題を理解する。	4.5	講義とレポート
7	医療制度と健康日本２１	医療制度の現状を知り、日本の健康にあり方について学ぶ。	4.5	講義とレポート

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書（必ず購入する書籍）	シンプル公衆衛生学2006	久道茂・鈴木庶亮	南江堂	2006、¥2400＋税　毎年改訂
参考書	厚生の指標－国民衛生の動向			
その他の資料	講義毎にレジメを配布する。			

【評価方法】

出席・レポート・試験により評価

【履修上の留意点】

専門職として基本的に身につけるべき予防医学を理解するための基礎的な知識の習得を目指す。

理学療法学科　専門